

資料1:フェスティバル／トーキョーの変遷

		F/T09春	F/T09秋	F/T10	F/T11	F/T12
東京都政策目標	目標	都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立する (2006年策定「10年後の東京」計画、目標6)			産業力と都市の魅力を高め、東京を新たな成長軌道に乗せる (2011年12月策定「2020年の東京～大震災を乗り越え、日本の再生を牽引する～」計画、目標5)	
	目標の方向性	・東京ならではの文化の創造・発信が行われ、文化面のプレゼンスを確立し、アジアの文化の中心地になる。 ・東京から発信する文化を通じ、アジアをはじめとする世界の様々な都市との交流が深まる。			東京の持つ強みを活かしながら、海外の成長をも取り込んで産業の活性化を図るとともに、戦略的な情報発信や体制強化等により、観光・文化面における東京のプレゼンスを向上させる。	
	目標の政策展開	オリンピック招致に向け、大規模な文化プロジェクトや様々な都市との国際交流を戦略的に展開。これらの事業を起爆剤とし、国内、アジアはじめ全世界にオリンピックムーブメントを巻き起こす。			<何度も訪れたくなる新たな魅力の創出> 東京を訪れる旅行者の多様なニーズに対応できるよう、地域ごとの特性を活かし、何度訪れても楽しめる新たな魅力を創出する。	
東京文化発信プロジェクト	事業のねらい	<p>・「東京都と東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)は、東京芸術文化評議会の提案に基づき、「東京から世界へ 新たな文化の創造・発信」をキーワードに、平成20年4月に「東京文化発信プロジェクト」を立ち上げました。</p> <p>以来、東京に集積する人材・施設などの文化資源を最大限に活用しながら、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信 2 芸術文化を通じた子供たちの育成 3 東京における多様な地域の文化拠点の形成 <p>の3つの目標を目指し、芸術団体やアートNPO等と協力して、幅広い分野の文化事業を展開しています。」(2009年度および2010年度東京文化発信プロジェクト事業の評価結果より抜粋)</p> <p>・F/Tは「1 世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」に分類される事業の一つ</p>			<p>・「東京文化発信プロジェクト」は、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて様々な事業を展開し、東京都の文化政策の目標実現において、主導的役割を果たします。</p> <p>目標達成に向けて、4つの視点から各事業を展開していきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.文化の創造を担う国内外の人材を東京に集め、多様な文化を生み出します。 2.東京に集う人々自身が主体となり、新たな文化を創造します。 3.新たな東京文化を世界に発信し、国際ネットワークの重要拠点となります。 4.東京の文化力で、震災からの復興を支援します。 <p>具体的な事業の柱は、以下の4本柱となります。</p> <p>・プロジェクトの4つの柱: Festival(世界的な国際フェスティバルの開催、東京における芸術文化の創造活動の拡充、国際的な創造・交流拠点としての認知)、Kids / Youth(子供・青少年たちへの、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会の提供、創造性に満ちた豊かな感性の育成)、Artpoint(アーティストと市民が協働するプログラムを、まちなかで展開。創造型NPO等と協働、防災、子育てなど他分野との連携、地域の文化創造拠点の創出)、Networking(「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピール、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開しネットワークを強化)</p> <p>(以上、東京文化発信プロジェクト公式サイトより)</p> <p>・F/Tはフェスティバル分野(概要:世界的な国際フェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高めます。)に位置付けられる</p>	
	F/Tの事業のねらい		・「東京からの舞台芸術の発信、舞台芸術の裾野の拡大」(2009年度東京文化発信プロジェクト事業の評価結果より)	・「国際文化創造都市を目指す東京から、世界に向けた舞台芸術の創造と発信を行い、アジアを代表する世界水準の国際舞台フェスティバルとすることを目標とする。」(2010年度東京文化発信プロジェクト事業の評価結果より)	・斬新で独自性・独創性の高い作品を上演 ・国際的な創造・交流・発信の基盤を形成 (東京芸術文化評議会「文化都市政策検討部会」報告 平成23年6月8日)	
開催概要	会期	2009年2月26日～3月29日(32日間)	2009年10月23日～12月21日(61日間)	2010年10月30日～11月28日(30日間)	2011年9月16日～11月13日(59日間)	2012年10月27日～11月25日(30日間)
	会場	(池袋エリア) 東京芸術劇場 中ホール、小ホール1・2 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) にしすがも創造舎	(池袋エリア) 東京芸術劇場 中ホール、小ホール1 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) にしすがも創造舎 シアターグリーン (その他) 世田谷パブリックシアター	(池袋エリア) 東京芸術劇場 中ホール、小ホール1 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) にしすがも創造舎 シアターグリーン 自由学園明日館	(池袋エリア) 西武池袋本店4階/まつりの広場 にしすがも創造舎/自由学園明日館 あうるすぽっと/シアターグリーン (その他) 都立夢の島公園内、多目的コロシアム、豊洲公園西側横 野外特設会場、/彩の国さいたま芸術劇場	(池袋エリア) 東京芸術劇場 あうるすぽっと にしすがも創造舎 シアターグリーン ほか
	主催	フェスティバル／トーキョー実行委員会(名誉実行委員長:高野之夫豊島区長、実行委員長:市村作知雄NPO法人アートネットワーク・ジャパン会長)、東京都、豊島区、財団法人東京都歴史文化財団、財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン	東京都、東京文化発信プロジェクト室(財団法人東京都歴史文化財団)、フェスティバル／トーキョー実行委員会(名誉実行委員長:高野之夫豊島区長、実行委員長:市村作知雄NPO法人アートネットワーク・ジャパン会長)、豊島区、財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン	フェスティバル／トーキョー実行委員会 東京都、豊島区、東京文化発信プロジェクト室・東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)、財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン	フェスティバル／トーキョー実行委員会 東京都、豊島区、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、公益財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン	フェスティバル／トーキョー実行委員会(名誉実行委員長:高野之夫豊島区長、実行委員長:市村作知雄NPO法人アートネットワーク・ジャパン会長) 東京都、豊島区、東京文化発信プロジェクト室・東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)、公益財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン
	共催	社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター (事業共催:国際交流基金)	社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター	社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター	社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター	社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター
	協賛	アサヒビール株式会社、株式会社資生堂	アサヒビール株式会社、株式会社資生堂	アサヒビール株式会社、株式会社資生堂	アサヒビール株式会社、株式会社資生堂	アサヒビール株式会社、株式会社資生堂
	助成	平成20年度文化庁国際芸術交流支援事業 財団法人アサヒビール芸術文化財団	平成21年度文化庁国際芸術交流支援事業 財団法人アサヒビール芸術文化財団	平成22年度文化庁優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業 財団法人アサヒビール芸術文化財団	平成23年度文化庁国際芸術交流支援事業 財団法人アサヒビール芸術文化財団	平成24年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ 公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団
	後援	外務省、社団法人日本芸能実演家団体協議会、社団法人日本劇団協議会	外務省、社団法人日本芸能実演家団体協議会、社団法人日本劇団協議会	外務省、社団法人日本芸能実演家団体協議会、社団法人日本劇団協議会	外務省、社団法人日本芸能実演家団体協議会	外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

		F/T09春	F/T09秋	F/T10	F/T11	F/T12
開催概要	特別協力	西武百貨店池袋本店、東武百貨店池袋店	西武池袋本店、東武百貨店池袋店、サンシャインシティプリンスホテル、ホテルメトロポリタン	西武池袋本店、東武百貨店池袋店、サンシャインシティプリンスホテル、ホテルメトロポリタン、チャコット株式会社	西武池袋本店、東武百貨店池袋店、サンシャインシティプリンスホテル、ホテルメトロポリタン、チャコット株式会社	西武池袋本店、東武百貨店池袋店、サンシャインシティプリンスホテル、ホテルメトロポリタン、ホテルグランドシティ、チャコット株式会社、株式会社白水社
	協力	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、社団法人豊島法人会	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、社団法人豊島法人会	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、社団法人豊島法人会	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、社団法人豊島法人会	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会
	宣伝協力	株式会社ポスターハリス・カンパニー	株式会社ポスターハリス・カンパニー	株式会社ポスターハリス・カンパニー、有限会社ネビュラエクストラサポート(公募プログラム)	株式会社ポスターハリス・カンパニー、有限会社ネビュラエクストラサポート(公募プログラム)	株式会社ポスターハリス・カンパニー、有限会社ネビュラエクストラサポート(公募プログラム)
	その他	認定:社団法人企業メセナ協議会 提携事業:東京芸術見本市2009	認定:社団法人企業メセナ協議会 提携事業:アジア舞台芸術祭2009東京	認定:社団法人企業メセナ協議会 提携事業:AICT(国際演劇評論家協会)国際シンポジウム・オン・アジア『国際共同制作と批評の役割』、アジア舞台芸術祭「国際共同制作ワークショップ」		認定:公益社団法人企業メセナ協議会
	組織委員	池田弘一(アサヒビール株式会社代表取締役会長兼CEO) 扇田昭彦(演劇評論家) 永井多恵子(社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター会長) 蜷川幸雄(演出家) 野村萬(狂言師) 林省吾(財団法人地域創造理事長) 福原義春(株式会社資生堂名誉会長)	天児牛大(振付家、演出家) 池田弘一(アサヒビール株式会社代表取締役会長兼CEO) 扇田昭彦(演劇評論家) 永井多恵子(社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター会長) 蜷川幸雄(演出家) 野田秀樹(演出家) 野村萬(狂言師) 林省吾(財団法人地域創造理事長) 福原義春(株式会社資生堂名誉会長)			天児牛大(振付家、演出家) 萩田伍(アサヒグループホールディングス株式会社代表取締役会長兼CEO) 扇田昭彦(演劇評論家) 永井多恵子(社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター会長) 蜷川幸雄(演出家) 野田秀樹(演出家) 野村萬(狂言師) 福原義春(株式会社資生堂名誉会長)
	事務局	事務局	フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 ・プログラム・ディレクター:相馬千秋 ・事務局長:蓮池奈緒子 ・事務局長補佐:宮崎あかり ・スタッフ96名【常勤:8名、プロジェクト契約:8名、インターン3名、F/Tクルー77名】	フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 ・プログラム・ディレクター:相馬千秋 ・事務局長:蓮池奈緒子 ・事務局長補佐:宮崎あかり ・スタッフ121名【常勤:10名、プロジェクト契約:10名、インターン2名、F/Tクルー99名】	・プログラム・ディレクター:相馬千秋 ・事務局長:蓮池奈緒子 ・スタッフ147名【常勤:12名、プロジェクト契約:12名、事務局アルバイト2名、インターン6名、F/Tクルー115名】	・プログラム・ディレクター:相馬千秋 ・事務局長:蓮池奈緒子 ・スタッフ142名【常勤:15名、プロジェクト契約:10名、事務局アルバイト2名、F/Tクルー115名】
事務局		【組織の構成】 広報、制作、制作補、技術監督、照明コーディネーター、音響コーディネーター、アートディレクション+デザイン、ウェブディレクション+デザイン、記録写真、編集、票券、PR	【組織の構成】 広報、制作、制作補、票券システム、票券管理、インターン、技術監督、照明コーディネーター、音響コーディネーター、PR、アートディレクション+デザイン、ウェブディレクション+デザイン、ドキュメント・コーディネーター、舞台写真、編集・執筆、パンフレット執筆、物販、翻訳サポート	【組織の構成】	【組織の構成】	【組織の構成】 制作、メディア戦略、プログラム・リサーチ、事業コーディネーター、票券管理、チケットセンター、総務、経理、制作アシスタント、メディア戦略補佐、アジア事業コーディネーター補佐、インターン、技術監督、技術監督アシスタント、照明コーディネーター、音響コーディネーター、アートディレクション+デザイン、ウェブサイト、パブリシティ、海外広報・翻訳、物販、編集・執筆、編集・執筆(「TOKYO/SCENE」)

		F/T09春	F/T09秋	F/T10	F/T11	F/T12
テーマ／ コンセプト	テーマ	あたらしいリアルへ(キーワード)	リアルは進化する	「演劇を脱ぐ」ことによって、演劇をひらく試み	私たちは何を語る事ができるか？ —現実を 掘り直すために	ことばの彼方へ
	コンセプト (*プログラムディ レクターが公式サ イトを通じて公表 したものを、要約・ 抜粋)	<p>・【フェスティバルの基本となるコンセプト】 「フェスティバル/トーキョー」(以下F/T)というフェス ティバルの名称では、「フェスティバル」と「トーキョー」 がスラッシュでつながれている。その間に想像される 関係性と、その答えは、F/Tに参加するすべての人 の問いかけと同じ数だけ存在する。F/Tは、このス ラッシュが象徴するような多様な関係、単純化するこ とができない二つのものの“つながり”を共に想像し、 議論し、共有する場であるとともに、その交換と対 話のプロセスから、あたらしい価値を生み出していく 「場」としてのフェスティバルである。</p> <p>・F/Tは以下の問いを自問する場でもある。メディア が多様化し、情報伝達が単純化・高速化する今日、 「その場、その時間」を共有することでしか成り立たない 舞台芸術だけが伝えうるものとは何か？そして、そ の力とはどのようなものだろうか？</p> <p>・F/Tの全作品は、アーティストの各々が捉えたリア ルを、さらに来るべき時代へと進化させようとする意 思の結実ともいえる。「いま・ここ」に集う作品群が、 いかに私たちに「あたらしいリアル」へと導いてくれる のか、ここからキーワードが導き出されている。</p> <p>・プロフェッショナルな俳優ではない人々が舞台上に 登場することを一つの特徴とした作品群を集中的に上 演するラインナップ。</p> <p>・フェスティバルは発表(プレゼンテーション)の場だ けではなく、創造(クリエイション)の場であるという意 図のもと、国際共同制作による作品の創造・普及を 推進。文化の多様性や表現そのものの価値を担保する 新しい作品の創造とその世界的な普及に深くコミッ トすることで、世界と日本、あるいは地方と東京を繋 ぐイニシアティブとしての役割をもつ。</p>	<p>・会期の変更に伴い、年度中の連続開催となった 「F/T09秋」では、春と秋を対となるプログラムと位置 づけ、複数のアーティストが連続参加。</p> <p>・「いま、ここ」の芸術である演劇というメディアの可能 性を問うという基本姿勢も「F/T09春」から継続。メ ディアが多様化し、情報伝達が単純化・高速化する 今日、「その場、その時間」を共有することでしか成 立しない舞台芸術が伝えうるものは何か？東京とい う都市が映し出す無数のリアルを前に、私たちは演 劇というメディアを通じていかに応答することができる のだろうか？以上のような問いと向き合う姿勢として 「あたらしいリアル」への探求の継承と、それをさらに 進化させる挑戦を続ける。</p> <p>・ソウルや上海などと連動する形で秋をアジアのフェ スティバル・シーズンと位置づけ、アジアから生まれ る作品の創造と普及に取り組む。</p> <p>・「あたらしいリアル」の進化形として、超越的なイメ ージの力によって、まだ見ぬリアルを探求する作品を集 中的に制作・上演。また、現実のドキュメンタリー性 を利用した一連の作品群のほか、劇場の外にある社 会の現実そのものを大胆に活用・引用するドキュメン タリー演劇を特集。ダンスでは、ダンスという身体表 現の本来的な衝動と可能性に真っ向から挑戦する作 品群で、来るべきダンスの新展望を模索していく。</p> <p>・フェスティバルという非日常をあらゆる参加者と共 有する場として、F/Tステーションの機能とプログラム を拡充。参加型プログラムも多彩である。</p> <p>・私たちが生きる現実への応答として、私たちの同時 代の真にリアルなもの、真に切実なものを巡る表現 と共有の場としてのフェスティバル。演劇と社会、表 現と同時代を巡る問いかけは続く。</p>	<p>・「新しい価値を創造する『場』としてのフェスティバ ル」として本格的な成長期に突入。</p> <p>・各演目の上演と平行した議論と共有の場として、 F/Tシンポジウムとそれに関連する各種プログラムを 本格化。</p> <p>・「演劇を脱ぐ」という、いささか挑発的なキーワードを 掲げることで、演劇というメディアの可能性を問うとい うF/Tの基本的な問題意識をさらに探求。これまでの 2回のF/Tで示した路線を推し進め、演劇が「演劇」と して認知されている前提条件としての「衣」を冒険的 に脱ぐことを試みる。F/T10に集った作品では、内容 のみならず、観客と作品の関係性、上演形式、上演 場所、上演時間まで、既存の枠組みに安住しない試 みの数々が展開される。「物語」から脱することに よって新しい演劇言語を切りひらいてきた作品群や、 演劇が行われる場としての劇場を離れ、俳優ではな く観客自身が演劇の担い手となる一連の作品群を仕 掛ける。また、個の記憶や歴史を「生きたドキュメン ト」として提示する一連の作品群も、そうした試み の中に位置づける。</p> <p>・ダンスにおいては、独自のドラマトルギーを探求し 続ける創り手が新作を発表。</p> <p>・新たに「F/T公募プログラム」と題し、若い劇団の自 主演がF/Tに参加する仕組みを導入。応募総数80 の中から、国内8団体が参加。</p> <p>・以上の試みを通して、F/T11は「演劇をひらいていく こと」をねらいとし、演劇の、ひいては芸術の公共性 について考え、その実践に向けた問いかけを続けてい く。F/T11に集う全作品が、この問いに対して、それぞ れの価値観に基づく応答を示すものになり、それら を横断的に検証するための対話の場、相互批評の場 によって、F/T自体がひとつの「考えるメディア」として ひらかれていくことが期待される。</p>	<p>・東日本大震災後に行われたF/Tの1回目。「歴史の 大きな転換点に立ち会っている私たちは、今、何を語 ることができるのだろうか？語りえないことへの沈黙 も含め、私たちはそのただ中にある。分断されたもの そとと繋ぎ直し、不確かな現実を掘り直すために、 今、私たちの想像力が試されている」。</p> <p>・「非現実的現実が、まさに現在進行形で進んでいる ただ中において、それでもフェスティバルという場、 トーキョーという都市において問い続けたいこととは 何か？演劇というメディアを通じて、掘り直したいも のとは何か？そもそも掘り直すことは可能なの か？」。さまざまな問いかけの中で、F/T11は「これか ら長い年月にわたり私たちが抱えていく複雑な現実 を、なんとか掘り直し、そこから派生する無数の問い かけをめぐる思考と実践を重ねる作業の始まりとなる」。</p> <p>・プログラムは、さまざまな形で演劇／劇場の外に出 ることによって、都市と演劇、演劇と社会の関係性を 問い直す試みを中心に構成。その多くが新作で、震 災以降の緊急の問いが色濃く反映されることになっ た。</p> <p>・新たな展開として、F/T公募プログラムがアジア地 域に拡大し、アジア地域共通のプラットフォームとし て本格的に始動。国内70件、アジア地域から80件、 計150件の応募総数の中から11団体が選ばれ、 「F/Tアワード」も新設された。</p> <p>・F/Tステーションは、都市の中に拡散する形で展 開。フェスティバルを楽しみ、深めるための機能を、 都市の既存の場やコミュニティとの連携のもとに 「F/T食堂」「F/Tステイ」「F/Tサロン」として提案。ま た震災に応答する特別企画として、「なにもない空間 からの朗読会」を連続でリレー開催した(被災地に向 けて、ネット中継)。</p>	<p>・震災後、ジャーナリスティックな言葉、原発事故を告 発し再稼働を糾弾する言葉、被災者の言葉、それを 代弁する言葉、被災地を励まし応援するスローガン、 それらに便乗する広告等のキャッチフレーズ、その 状況を取り巻く人々のつぶやきなど、都市やネット空 間の中で言葉はどこまでも拡散し、私たちの感覚を 覆い尽くしていく。こうした中、「仮に演劇の言葉とい うものがあるとしたら、それはどのようなものなのだろ うか。それはどこから発せられ、どこへ向けられてい るのか。演劇は古来より言葉を媒介にした芸術であ るが、これほど多様な言葉が多様なメディア上に氾 濫する時代において、演劇というメディアを用いた言 葉たちは今、何を語る事ができるのだろうか」。</p> <p>F/T12では、「語り得ない現実を前にした失語状態を 経て、それでも果敢に発せられようとしているいくつ かの言葉を手がかりに、聞こえない声に耳を澄まし、 この不確かな現実を掘り直す作業」を継続。</p> <p>・エルフリーデ・イエリネクを特集、3つの戯曲を連続 上演。他に、「震災後の失語状態を経て、日本で生ま れたあたらしい言葉」や「ジャーナリズムが伝えない現 実をマイクロに捉える海外の表現者たちが発する言葉」 などを試みる。</p> <p>・公募プログラムがさらなる飛躍。アジア全域、計180 件の応募の中から11作品が選出。F/Tアワードに は、アジアからの審査員も加わる。</p> <p>・F/Tステーションは、東京芸術劇場全館、多様な空 間のポテンシャルを活用する形で実現。</p> <p>・フラッシュモブの手法を活用したパフォーマンス 「F/Tモブ」の導入。</p> <p>・F/Tから派生する言論を演目の外側に拡張し、作品 の背後にある社会の思想や文脈をより深く共有して いくための試みとして、新たな批評メディア「TOKYO / SCENE」を刊行。</p>
プログラム	プログラム	<p>・上演作品数：計19演目127上演 F/Tパフォーマンス：14演目 (国内10、海外4) F/T参加作品：5演目</p> <p>上記のうち、 ・新作・世界初演：3作品 ・国内外の劇団や劇場、フェスティバルとの共 同製作：3作品 ・既存の作品のリクリエーションあるいは日本 バージョン制作：1作品</p>	<p>・上演作品数：計20演目155上演 F/Tパフォーマンス(F/T)主催：15演目 (国内8、海外7) F/T参加作品：4演目</p> <p>上記のうち ・新作・世界初演：5作品 ・国内外の劇団や劇場、フェスティバルとの共 同製作：6作品 ・既存の作品のリクリエーションあるいは日本 バージョン制作：2作品 ・F/T提携事業：アジア舞台芸術祭2009東京</p>	<p>・上演作品数：計26演目206上演 F/T主催作品：15演目 (国内10、海外5) F/T公募プログラム：8演目 (応募：国内80) F/T参加作品：3演目</p> <p>上記のうち ・世界初演：11作品 ・国内外の劇団や劇場、フェスティバルとの共 同製作：7作品 ・既存の作品のリクリエーションあるいは日本 バージョン制作：1作品 ・F/T提携事業：アジア舞台芸術祭『国際共同 制作ワークショップ』、AICT 国際シンポジウム 『国際共同制作と批評の役割』</p>	<p>・上演作品数：計27演目250上演 F/T主催作品：10演目 (国内7、海外3) F/T公募プログラム：11演目 (国内7、海外4 ／応募：国内70、アジア80、計150) F/T参加作品：6演目</p> <p>上記のうち ・世界初演：7作品 ・国内外の劇団や劇場、フェスティバルとの共 同製作：6作品 ・既存の作品のリクリエーションあるいは日本 バージョン制作：1作品 ・F/T提携事業：アジア舞台芸術祭『国際共同 制作ワークショップ』作品</p>	<p>・上演作品数：計29演目166上演 F/T主催プログラム：12演目、7企画 (国内7、海外5) F/T公募プログラム：11演目 (国内5、海外6 ／応募：国内94、アジア86、計180) F/T連携プログラム：8プログラム</p> <p>上記のうち ・世界初演：3作品 ・国内外の劇団や劇場、フェスティバルとの共 同製作：6作品 ・既存の作品のリクリエーションあるいは日本 バージョン制作：1作品</p>
	結果	<p>・伊藤キム「おやじカフェ」 ・F/Tステーション ・フェスティバル/トーキョー プレ・オープニング 国際シンポジウム ・F/Tユニバーシティ</p>	<p>・伊藤キム「おやじカフェ」 ・快快(ファイファイ)による「快快のGORILLA」 池袋を明るくする」イベント ・F/Tステーション ・F/Tユニバーシティ ・F/Tオープン・スタジオ ・F/Tライブ ・ディレクターズ・トーク ・劇評コンペ</p>	<p>・F/Tシンポジウム&F/Tテアトロテーク ・F/Tステーション：カフェ・ロッテンマイヤー、 F/Tステーション ・F/Tユニバーシティ、F/Tゼミ</p>	<p>・F/Tステーション：なにもない空間からの朗読 会、F/T食堂、F/Tステイ、F/Tサロン、F/Tイン フォメーション、批評家in レジデンス ・F/Tシンポジウム&F/Tテアトロテーク ・F/Tユニバーシティ、劇評コンペ</p>	<p>・F/Tモブ：参加アーティスト5名 ・F/Tステーション ・F/Tダイアローグ ・F/Tテアトロテーク ・F/Tユニバーシティ・F/Tモブ：参加アティ スト5名 ・F/Tステーション ・F/Tダイアローグ ・F/Tテアトロテーク ・F/Tユニバーシティ</p>
事業成果	結果	来場者数：延べ61,457人 (パフォーマンス15,438人、ステーション25,043 人、カフェ3,423人、関連企画615人、参加作 品16,938人)	来場者数：延べ64,039人 (パフォーマンス19,666人、ステーション29,728 人、カフェ5,132人、関連企画4,611人、参加作 品4,902人)	来場者数：延べ64,931人 (主催作品19,743人、公募プログラム3,429人、 ステーション21,199人、カフェ2,083人、関連企 画163人、参加作品18,314人)	入場者数：34,024人 (主催演目15,578人、公募プログラム5,193人、 ステーション4,059人、関連企画160人、参加作 品9,034人)	入場者数：40,904人 (主催プログラム10,995人、公募プログラム 5,032人、モブ10,101人、ステーション・関連企 画3,126人、連携プログラム11,650人)

		F/T09春	F/T09秋	F/T10
事業評価 (文化発信プロジェクト事業評価報告書より)	成果 (東京文化発信プロジェクト全体評価におけるF/Tの言及箇所)	<p>・【手段の適切さについて】「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」に向けた国際芸術フェスティバルや文化イベントの中からは、「フェスティバル／トーキョー」「六本木アートナイト」「恵比寿映像祭」等、独自性が高く世界の主要都市に比肩するプログラムが生まれてきている。特に「フェスティバル／トーキョー」は、国際共同製作、国内アーティストへの新作委嘱などを積極的に展開し、舞台芸術における創造と交流、発信の国際的なプラットフォームとして機能した。</p> <p>・【プログラム構成(ジャンル)について】東京文化発信プロジェクトは、伝統芸能、演劇、音楽、美術・映像の分野で多彩な事業を展開しており、必要なジャンルはほぼ網羅されている。特に演劇と美術・映像分野については、海外への発信に大きく貢献した「フェスティバル／トーキョー」や、高い集客力・発信力を見せた「六本木アートナイト」などの成功により、「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」の実現に大きく寄与した。</p>	<p>・伝統文化、演劇、音楽、美術・映像など、多様な分野で事業を展開し、芸術文化の創造発信、芸術文化を通じた子供たちの育成、東京における多様な地域の文化拠点の形成という3つの目標実現に向けて、着実に成果を挙げた。</p> <p>・フェスティバル分野では、F/T、恵比寿映像祭が、国際的なアート・フェスティバルとして認知され、創造発信のプラットフォームが形成されつつある。</p>	<p>・フェスティバル分野では、フェスティバル／トーキョー、六本木アートナイト、恵比寿映像祭などが、独自性の高い国際的なアート・フェスティバルとして定着しつつあり、創造発信のプラットフォームの形成にもつながってきている。</p>
	成果 (F/Tのみに対する評価)	<p>●斬新で社会に対して挑戦的な作品の上演が多い、東京の持つ文化的パワーにふさわしい事業の実施</p> <p>●世界的に見ても専門性の高いフェスティバルに成長</p> <p>●世界的な認知も一定程度達成</p> <p>●舞台芸術分野における創造と交流、発信の国際的なプラットフォームの形成</p> <p>●メディアによる高い評価の獲得</p> <p>●将来を嘱望される日本人アーティストの登用</p> <p>●当該年度における東京文化発信プロジェクト全体評価においては、特に海外への発信力への貢献が評価された</p>	<p>●3回目の開催で、事業が定着するとともに、さらに充実した内容のフェスティバルとなった</p> <p>●オリジナルのプロデュース作品を上演するノウハウも十分蓄積されており、これまでで最大の成果を上げることができた</p> <p>●国内外での注目度も高く、F/Tプロデュース作品が世界で上演するスキームが整い、世界の主要なパフォーミングアーツ・フェスティバルの一つとなっている</p>	
	課題 (東京文化発信プロジェクト全体評価におけるF/Tの言及箇所)	*2009年事業評価では該当欄なし	<p>・東京文化発信プロジェクト全体としては、プログラムは充実してきているが、海外に十分に認知されるだけの発信力は、まだ、不足している。</p> <p>・フェスティバル分野では、国内外の認知度が高まった事業がある一方、伝統芸能公演、音楽事業などは、まだ国内での存在感を高めていく段階にとどまっている。</p>	<p>・プログラムの中には、充実し、認知度の高まっているものもあるが、東京文化発信プロジェクト全体としては、海外に十分に認知されるだけの発信力は、まだ不足している。</p> <p>・フェスティバル分野では、回数を重ねたことにより、都民の間に定着しているものもあるが、伝統芸能公演、音楽事業などは、まだ存在感を高めていく段階にとどまっており、既存の枠に捉われない新しい取組を検討する必要がある。</p>
	課題 (F/Tのみに対する評価)	<p>■一部演劇ファンにとどまらない層への普及を検討することが必要</p> <p>■舞台芸術を支える人材の育成及び舞台芸術を鑑賞する観客の育成に資する事業構築が必要</p>	<p>■パフォーミング・アーツに、普段、馴染みのない多くの人々の認知度を高めていくことが必要</p> <p>■より深くアートについて議論したり体験したりする場づくりや、若い世代の発掘・育成と未来の観客の創出、健全な批評を実現するような取組が必要</p> <p>■今後大きく事業展開するためには、資金の確保や、アジア地域との連携を考えていくことが必要</p>	
	今後の方向性	<p>▲東京を代表する国際的な演劇フェスティバルとして継続</p> <p>▲更なる観客層の拡大</p> <p>▲将来的に、この事業を核として、都市型フェスティバルが形成されるよう検討すべき</p>	<p>▲今後、アジアを代表するフェスティバルとして、より大きく事業展開していくためには、演劇に接する機会が少ない層への普及や、さらなる資金の確保などの課題を検討していく</p>	